

科目名		総合実習 2							年度	2025
英語科目名		General Practice 2							学期	後期
学科・学年	デザイン科 インテリアデザイン専攻 1 年次		必／選	必	時間数	120	単位数	4	種別※	実習
担当教員		二村美里			教員の実務経験		有	実務経験の職種		インテリアデザイナー
【科目の目的】 ①商業系のインテリアデザインに必要なデザインプロセスを、ショウウィンドウのデザインを通して学ぶ。 ・5W1Hを意識したデザインが出来るようになる。 ・そのお店（又は商品）のコンセプトや雰囲気を掴み、それを活かすインテリアデザインが出来る。 ・スケッチや試作を通してデザインを検証、改良。丁寧に正確な作業をし、魅力的なデザインを目指す。 ②プレゼンツールとして模型の作成を初めて経験し、今後作れるようになる。										
【科目の概要】 前期の授業では、デザインの基礎的な力を身に付けてもらいましたが、後期からはより専門的に学んでいきます。この授業では、店舗のインテリアデザインに必要な力を身に付けてもらいます。 商業のインテリアデザインは、住宅で求められるような居心地の良さや使いやすさだけでなく、そのお店が扱う商品のコンセプトを理解し、その商品が魅力的に見えるデザインが求められます。 商業系のインテリアデザイナーがデザインをする際の考え方や作業工程を、ショーウィンドウのデザインを通して実習していきます。ましよう。										
【到達目標】 A. 5W1Hを意識したデザインが出来る。 B. そのお店や商品のコンセプトを理解し、商品を活かすインテリアデザインが出来る。 C. デザインをスケッチや試作を通して計画できる。 D. 模型の仕上げが丁寧である。 E. 相手に伝わるプレゼンが出来る。										
【授業の注意点】 各課題の提出日やプレゼン日に欠席した場合は本来の評価から減点となるため、注意が必要。 また、以下の場合は落第とするため、注意が必要。 ・出席率75%以下。（全15回の授業のうち、3回以上の欠席を指す。） ・最終授業までに1つでも未提出物がある場合。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価		レベル5 優れている		レベル3 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A		5W1Hを意識し、魅力的に活かしたデザインが出来る		5W1Hを意識したデザインが出来る			誰が何のために使う空間か意識せずデザインする			
到達目標 B		お店や商品のコンセプトを理解し、商品を魅力的に活かすインテリアデザインが出来る		お店や商品のコンセプトを理解し、商品を活かすインテリアデザインが出来る			お店や商品のコンセプトを理解せず、商品を活かすデザインをしない			
到達目標 C		デザインをスケッチや試作を通して検証、改良出来る		デザインをスケッチや試作を通して計画できる			デザインをスケッチや試作をせず、いきなり作り始める			
到達目標 D		図面や模型の仕上がりが美しく魅力的な提案に見える		図面や模型の仕上げが丁寧である			図面や模型の仕上がりが汚い			
到達目標 E		作品内容を相手に分かりやすく魅力的に伝えられる		作品内容を相手に分かりやすく伝えられる			何を言いたいのか聞き手に伝わらない。			
【教科書】 無し。										
【参考資料】 随時クラスルームへアップします。										
【成績の評価方法・評価基準】 締切日までの提出物とプレゼンで評価。評価基準はルーブリック評価に基づく。 出席率や授業態度も評価の対象とする。 ※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		総合実習 2				2025	
英語表記		General Practice 2				後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題説明	・ 課題の理解 ・ お店や商品検討	1	課題の説明	課題の主旨やスケジュールを理解する	2	2
			2	お店や商品の検討	どのお店、商品のデザインをしたいか検討		
2	商品決め	お店や商品検討	1	先生と相談	どのお店にするか先生と相談し、決める	2	2
		到達目標Bの達成	2	お店や商品に対しての理解を深める	決めたお店や商品のコンセプトやターゲット層などを調べて、理解を深める。		
3	5W1Hからデザインを考える	到達目標Aの達成	1	5W1Hを考える	5W1Hを意識し、魅力的に活かしたデザインを計画出来る	2	2
4	デザイン案出し	到達目標Cの達成	1	商品を活かすデザインを考える	デザインをスケッチや試作を通して検証、改良出来る	2	2
5							
6			2	先生へ提出	どのデザインにするか決定する		
7	設計図作成	到達目標Dの達成	1	三面図の作成	図面の仕上がりが美しく魅力的な提案に見える	2	2
8							
9							
10							
11	プレゼン	到達目標Eの達成	1	クラス全員のプレゼンを行う	作品内容を相手に分かりやすく魅力的に伝えられる	2	2
12	模型作成	到達目標Dの達成	1	模型の作成	模型の仕上がりが美しく魅力的な提案に見える	2	2
13							
14							
15							
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							

科目名		総合実習 2								年度	2024	
英語科目名		General Practice 2								学期	後期	
学科・学年	デザイン科 インテリアデザイン専攻 1年次				必／選	必	時間数	120	単位数	4	種別※	実習
担当教員		小川 知子				教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計	
【科目の目的】												
環境工学や建築設備、建築法規等を学ぶことにより、安全で快適な空間をつくるために必要な知識を得る インテリアコーディネーター１次試験に合格するための基本的な力をつける。												
【科目の概要】												
1. 環境工学：熱と湿気、換気と通風、音環境、光環境 2. 住宅設備：給排水給湯設備、換気空調設備、自然エネルギー設備、電気設備、照明、水回りの設備 3. 建築関連法規：建築基準法、その他の関連法規												
【到達目標】												
到達目標 A：環境工学の各項目についての基礎知識を身につけ、快適で安全な環境に必要な事項を理解する 到達目標 B：建築設備の各項目についての基礎知識を身につけ、空間に適した設備を選択できる 到達目標 C：水回りの設備や照明設備などの基礎知識を身につけ、特徴を理解する 到達目標 D：建築基準法のうち、インテリアに関連する法規を学び、最低限守らなければいけない事項を理解する 到達目標 E：インテリア関連法規の代表的なものを学び、注意すべき事項を理解する												
【授業の注意点】												
授業時には、テキスト、ノートを持参すること。授業後には復習すること。授業内容を理解しているかを確認するために、翌週の授業開始時に小テストを行うので、遅刻しないこと。 授業の最終回には期末試験を行う。授業時数の3/4以上出席しない者は不合格とする。 また、小テストと期末試験において一定の基準に達しなかった者も不合格とする。												
評価基準＝ルーブリック												
ルーブリック 評価	レベル5 優れている				レベル3 ふつう				レベル1 要努力			
到達目標 A	環境工学の基礎をととてもよく理解している				環境工学の基礎を概ね理解している				環境工学の基礎に関する理解が不十分である			
到達目標 B	建築設備の基礎をととてもよく理解している				建築設備の基礎を概ね理解している				建築設備の基礎に関する理解が不十分である			
到達目標 C	水回り設備や照明の基礎をととてもよく理解している				水回り設備や照明の基礎を概ね理解している				水回り設備や照明の基礎に関する理解が不十分である			
到達目標 D	建築基準法についてとてもよく理解している				建築基準法について概ね理解している				建築基準法についての理解が不十分である			
到達目標 E	インテリア関連法規についてとてもよく理解している				インテリア関連法規について概ね理解している				インテリア関連法規についての理解が不十分である			
【教科書】												
インテリアコーディネーターハンドブック統合版下												
【参考資料】												
プリント配布あり												
【成績の評価方法・評価基準】												
小テスト 30% 授業内容の理解度をはかる 期末試験 50% 授業内容の定着度をはかる 平常点 20% 授業態度 出席状況による												
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。												

科目名	総合実習 2								年度	2025	
英語科目名	General Practice 2								学期	後期	
学科・学年	デザイン科	インテリアデザイン専攻	1 年次	必／選	必	時間数	120	単位数	4	種別※	実習
担当教員	蓮尾 哲也				教員の実務経験		有	実務経験の職種		写真家	
【科目の目的】 Photoshopの基本的な操作方法を再確認して、正確に深く理解することを目的とする。また、一眼レフカメラの取り扱い方法を学び、模型撮影や空間撮影の撮り方を習得する。それらが必要な技法となり、よりリアルな表現ができるようにレベルを上げる。											
【科目の概要】 Photoshopの基本的な操作方法を学びながら、講師と一緒に画像処理をしていく。操作を理解した上で例題を自ら考えて作成していく。Photoshopの操作を深く理解し、自分の発送をどのようにしたら、表現できるようになるのかを学んでいく。撮影の授業では一眼レフの操作を学び、自らライティングをして、表現出来るようになる。											
【到達目標】 A Adobe Photoshop を用いて、デザイン作業に必要な応用力がつく。 B 模型や空間の撮影方法を習得することができる。 C 応用的な画像編集の知識・技術の理解を深めることができる。 D 課題内容を理解し、自分で発案・提案を行い、他者に意図を伝えれる制作ができる。											
【授業の注意点】 授業中の私語や授業態度などは厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への意向を前提とした授業マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力						
到達目標 A	Adobe Photoshop を用いて、デザイン作業に必要な力がついている		Adobe Photoshop を用いて、デザイン作業に必要な力が概ねついている		Adobe Photoshop を用いて、デザイン作業に必要な力がついていない						
到達目標 B	模型や空間の撮影方法を習得することができている		模型や空間の撮影方法を習得することが概ねできている		模型や空間の撮影方法を習得することができていない						
到達目標 C	画像編集の知識・技術の理解を深めることができている		画像編集の知識・技術の理解を深めることが概ねできている		画像編集の知識・技術の理解を深めることができていない						
到達目標 D	発案・提案を行い、他者に意図を伝えれる制作ができている		発案・提案を行い、他者に意図を伝えれる制作が概ねできている		発案・提案を行い、他者に意図を伝えれる制作ができていない						
【教科書】											
【参考資料】 授業にて資料配布を行う 参考資料等は授業中に指示をする											
【成績の評価方法・評価基準】 試験・課題 90% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 平常点 10% 積極的な授業態度 ☐ ☐											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

科目名		総合実習 2				2025	
英語表記		General Practice 2				後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	Photoshopの概要	オリエンテーション			操作画面や各種パネルを理解する		
					デジタル画像の基礎知識を理解する		
2	Photoshop基礎①	画像の明るさ、色味		ステップ1	画像の明るさについて理解する		
					画像の色味について理解する		
3	Photoshop基礎②	コピー・スタンプ等画像修正		ステップ2	コピーの機能について理解する		
					スタンプ・その他の機能について理解する		
					画像修正について理解する		
4	Photoshop基礎③	選択範囲を理解する		ステップ3	選択範囲を理解し、正しく選択できる		
5	Photoshop基礎④	レイヤーを理解する		ステップ4	レイヤーの原理を理解する		
6	Photoshop基礎⑤	グラデーションツール		ステップ5	グラデーションツールを使うことができる		
7	Photoshop基礎⑥	マスクと切り抜き		ステップ6	マスクと切り抜きの機能を使うことができる		
8	作品制作1-1	課題を通してスキルの定着を図る		第1課題に取り組む	Photoshopを使って作品制作ができる		
9	作品制作1-2	課題を通してスキルの定着を図る		第1課題に取り組む	Photoshopを使って作品制作ができる		
10	作品発表プレゼン	課題を通してスキルの定着を図る		第1課題に取り組む	自身で制作した作品を、説明できる		
11	一眼レフ講座	撮影スキルをつける		機材の使い方	一眼レフカメラの使い方がわかる		
				撮影ポイント	撮影のポイントがわかる		
12	撮影方法 指導	撮影スキルをつける		機材の使い方	一眼レフカメラの使い方がわかる		
				撮影ポイント	撮影のポイントがわかる		
				撮影	一眼レフカメラで撮影をする		
13	作品制作2-1	課題を通してスキルの定着を図る		第2課題に取り組む	自身が撮影した画像を使い作品制作ができる		
14	作品制作2-2	課題を通してスキルの定着を図る		第2課題に取り組む	自身が撮影した画像を使い作品制作ができる		
15	作品発表プレゼン	総評まとめ		第2課題に取り組む	自身で制作した作品を、説明できる		
				まとめ	目標スキルに到達できたか確認をする		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							